

町政報告

津南町長 桑原はるか

その他の主な実績



新型コロナウイルス感染症対策

- ✓ 小規模自治体として全国に先駆け町内でのPCR検査体制を整備
- ✓ 国の持続化給付金の対象となる事業者に給付金を支給
- ✓ 飲食店等が行う消費拡大キャンペーンへの補助を実施
- ✓ 津南町プレミアム共通商品券の実施(第1弾・第2弾)
- ✓ 国の定額給付金の支給対象にならなかった新生児に10万円を支給(継続中)
- ✓ 保育園・小中学校等の衛生環境の整備(トイレ・手洗い場)

自然災害への対策

- ✓ 令和元年の東日本台風水害を受け、信濃川河川改修を国へ要望・早期着工
- ✓ 移動系防災行政無線のデジタル化
- ✓ 記録的大雪を受け、豪雪支援金の支給、除雪や消雪剤への補助等を実施
- ✓ 洪水ハザードマップ、ため池ハザードマップの作成

安心な暮らしへの対策

- ✓ 生活道路の安全確保に向け、町道の防雪・舗装・防災工事を着実に推進
- ✓ 冬季期間に安心して道路を利用できるよう、除雪ドーザ・ロータリ除雪車の整備
- ✓ 集落機能の維持・強化のため集落支援員の設置
- ✓ 障害者グループホームの整備補助

子育て・教育環境の整備

- ✓ 保育園のホール及び未満児室等・小中学校の普通教室等へのエアコン整備
- ✓ 児童・生徒への1人1台タブレットの配備
- ✓ 産婦健康診査の2回分を公費負担、子どもの入院診療の無償化
- ✓ 妊娠初期から切れ目ない支援をおこなうため、子育て世代包括支援センターを設置
- ✓ ひきこもりの方の社会参加支援

より良い町役場へ向けた改革

- ✓ 財政の健全化に向け、各事務事業の見直しを実行
- ✓ 災害時の緊急対応や、町の未来に向け、基金を着実に積み上げ(3年で7.5億円増)
- ✓ 国の審議会委員に選ばれるなど、国との独自ネットワークを形成
- ✓ 多様な人材の採用(農業専門人材・社会人枠)
- ✓ 「町長と語る会」や「津南未来会議」を実施し、町民の皆さんとの声を受け止め、町政へ反映

歩みをとめない

皆さまとともに目指す この先の津南

誰もが安心して 医療を受けられる津南へ

老朽化する病院施設への対応を見据えた中長期計画を作成するとともに、医師の確保や機能拡充を進めてまいります。

基幹産業である 農業が元気な津南へ

農業に関わる産業における雇用を増やすことで、津南に住み続け、地域を支える担い手づくりを進めてまいります。

商工業が活性化し 雇用が守られる津南へ

中小企業の人材確保支援を継続して行うとともに、女性や若者も働ける場となる新たな企業の誘致を進めてまいります。

町全体で若い世代を応援する 「子ども真ん中」の津南へ

保育環境整備について、子どもたちの育ちを最優先にしながらも、さまざまな意見を真摯に受け止め進めてまいります。

子どもたちの主体性や創造性が 育まれる津南へ

産業や地域のこれからを担う後継者づくりのため、津南の自然環境や文化を活かした学びを進めてまいります。

日々の生活が守られる津南へ

安全安心な暮らしを守るべく、生活道路の改善や災害対策などを着実に実行してまいります。

地域経済の好循環を生み出し、 全国に誇れる津南へ

農業・商工業・観光の連携によって津南の価値を訪れる人に伝え、起きたある地域経済の好循環を着実に進展させてまいります。

新型コロナウイルス感染症の 時代を乗り切れる津南へ

国や県と築いてきたネットワークを活かし、生活支援や産業支援を迅速に実施してまいります。



プロフィール

1986年(昭和61年)8月4日 35歳

夫、子ども2人、夫の両親・祖父

得意な料理 豚肉の料理、にぎり鮓、キーマカレー、野菜の天ぷら
津南町立津南小学校、津南町立津南中学校、新潟県立国際情報高校、
早稲田大学社会科学部卒業、東京大学公共政策大学院修了



発行元：はる会 村山文雄 〒949-8201 中魚沼郡津南町下船渡2895 ☎025-765-2780

その先に 見せたい 津南がある

その一心から、「希望と愛、参加できるまちづくり」を掲げ、2018年7月より町長職に全力を注ぎました。ここまで町政運営にお支えをいただいた町民の皆さんにこの場をお借りしまして、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大、頻発化している水害や雪害。人口減少や少子化・高齢化。次々と起こる事案や町の課題。6年半の政治経験しか持たなかつた私にとって、これらに一途に向かい続けるには大きなエネルギーが必要でした。課題に真っ直ぐ向き合うこと、そして公正さを大切にした運営を心がけてまいりましたが、様々なご指摘もいただき、それらの声も真摯に受け止め反省しております。

誰が、どこで、どのような思いで動いているのか、町全体の理解が深まることは、次の打ち手への大きな財産になっています。壁にぶつかることがあります、歩みを止めるわけにはいきません。新たな取組を始めており、前進しているということを、ここでご報告できればと思っております。

1日も早く、町民の皆さんに効果を感じていただけるよう、そして、全国に「津南町ここにあり！未来は拓いていくことができる。」そんなメッセージを伝えられるよう、これからも全力を尽くしてまいります。

誰もが安心して医療を受けられる津南へ

町立病院の経営を改善

慢性的な赤字体质が課題となっていた津南病院。平成29年度には、町から病院に対し約3.4億円もの赤字補てんをしなければ経営存続できない状況でした。そうしたなか、令和元年9月に新たな病院長を迎えて、職員一丸のもとに、外部有識者の力もお借りしながら、津南町と津南病院が一体となって経営改善に取組んでまいりました。そして、各職員の精力的な努力の結果、今後も持続的に病院を経営していく程度にまで、町からの補てん額を減少させることができました。そして、町からの補助金を減らすことができたことで、町の財政の健全化も大きく進んでいます。



また、単なる経営改善に留まらず、整形外科の常勤医の確保や生活習慣病外来、また地域包括ケア病床の開設という津南病院の特色化も行うと同時に、新型コロナウイルス感染症対策として院外発熱外来や検査体制の整備、院内改修なども行い、安心して受診できる医療の提供に努めています。こうした津南病院の再生の取組は国からも評価され、総務省の事例としても取り上げられることになりました。

基幹産業である農業が元気な津南へ

担い手づくりを積極的に推進

農を以って立町の基と為す

先人たちが創り、遺してくれた優良な農業の基盤を活かし、全国の産地に伍する強い産地づくりを進めたい。この思いから、役場の機構改革を行い、新たに農林振興課を創設したことを加え、農業専門人材の採用を行うとともに、真の持続性を確保するために、農業経営の法人化を進めることで、担い手、後継者の育成を進めています。

トップセールスで津南を発信

東京等でのトップセールスにも力を入れ、津南の農産物を積極的に発信しています。また、コロナ流行後には、新幹線による出荷を開始しました。生産者とメディアを繋げることで、新聞・情報誌・テレビなどに出ることも増えてきています。国内最大級のお米コンクール「米・食味分析鑑定コンクール:国際大会」の令和5年招致も実現しました。

農家負担を軽減

基盤整備の際、農家の方々の負担を軽減するため、新たな基金(津南町農業振興基金)を創設しました。また、津南独自のスマート農業を進めるため、法人や個人農家への農業機械の導入支援を行うとともに、ドローン免許取得支援では、これまでに36人が免許を取得されています。



実績

新規就農者

11人 UP

新規法人

8人 UP
法人

法人就農者

27人 UP

期間:2018年~2021年 参照:令和4年3月9日町長定例記者会見資料

町全体で若い世代を応援する「子ども真ん中」の津南へ

どうして保育園の環境整備を進める必要があるの?

混合保育の解消

少子化に伴い、入所率が50%を下回る園が複数発生するとともに、4・5歳児の混合保育が常態化しています。

混合保育は、家庭的な雰囲気で異年齢の交流ができるというメリットはあるものの、発達段階に即した保育が困難となっています。

3歳未満の待機児童を解消

入所率が低下する一方、3歳未満児では待機児童の課題があります。

また、3歳未満時の混合保育も常態化し、例えは、ハイハイをする0歳児と走り回る園児と一緒に過ごす状況となり、安全にのびのびと過ごせる環境の確保が困難となっています。

施設機能・老朽化への対応

待機が発生するのは、そもそも3歳未満児童の受入人数に対応した施設機能になっていないためであり、保育室の不足や授乳室の未整備などが課題となっています。

また5園中4園が築25年以上を経過し、園舎の老朽化が進んでいます。

子どもたちのより良い育ちのために

環境整備に向けたひまわり保育園の増築が2度の入札不調となり、スケジュールに遅れが生じています。主にコロナ禍による主要資材の高騰を受けたものですが、いかなる理由があるにせよ、結果としてスケジュール通りに事業を進められていないことは、町長として大変申し訳なく、自らの力不足を反省しております。今後は、課題の検証を踏まえ、国の支援をいただきながら計画を見直すとともに、丁寧に事業を進めてまいります。

地域の方々にとって身近な保育園が無くなることは受け入れづらいことと思います。一方で、少子化が進むなか、将来の津南にとって優先すべきは、子どもたちの発達に応じたより良い育ちのための環境整備であると私は信じています。今後も議会をはじめ、保護者や地域の方々からのご意見を真摯に受け止めながら、丁寧に事業を進めてまいります。

地域経済の好循環を生み出し、全国に誇れる津南へ

観光を起点にした着実な変化

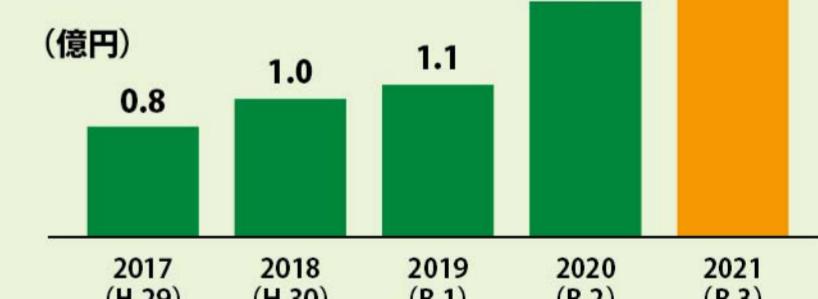
津南には誇れる独自の価値があります。私は、農業・商工業・観光が連携することで、その価値を活かした地域経済の好循環を生み出したいと考えています。

例えば、津南に訪れた宿泊客が農作物の生産者と触れ合いを楽しんだことで津南ファンになり、ふるさと納税も着実に増加しつつあります。

また、「住んでよし、訪れてよし」との観点から、まちなかのにぎわい創出に向け、かねく様を改修し、子どもから高齢者までの多世代が交流できる場所をこの夏にもオープンする予定です。こうした場は新たな企業の進出拠点になり、雇用の確保にも繋がります。

ふるさと納税額

4年で1.2億円増加



参考:平成29年度~令和2年度津南町一般会計歳入歳出決算書、令和3年度津南町一般会計補正予算(第2号)



このような観光を起点にした良い流れを広げるために、町ではこれまで観光地域づくり法人(DMO)の設立に向けて歩みを進めてまいりました。一方で、DMOは日本でも比較的新しい取組であることから、町民の皆さんに十分に理解いただける段階となっていないことも事実です。そのため今後は、町民の皆さんと対話をを行いながら、すでに起き始めている変化を着実に進展させてまいります。